

表紙, 目次, 雑纂, 漫録, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38348

明治四十五年五月一日發行

十全會雜誌

卷七十第
號五第
(號六十七第)

全澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌(第十七卷第五號) 目次

○原著及實驗

●先天性神經病及精神病ノ遺傳。

福田 美明 一

○雜 纂

●南ヘト志ス醫師ハ如何ナル疾病ニ就キテ
智識ヲ要求スルカ。

醫學士 大野 禧 一 八

●「サルブルサン」ト改良。

○漫 錄

●溫泉調査隊。

●鑛泉湧出地ニ於ケル試驗。

●睡ロード、リスダア。

●米國に於ける開業醫。

佐 伯 矩氏談

○通 信

●張蕪郷君通信。●猪木彦助君消息。●菊地文信君消息。●酒井謙治
郎氏通信。

○校內雜報

●弓術百射會記事。●第五回杏林會。

○內地雜報

●醫學會講演者。

○叙任及辞令

●金澤醫學專門學校。●石川縣。

○人 事

●横山稔氏。●中川幸庵氏。●伊藤齋氏開業披露。●福田美明氏開業披露。●吉尾開道氏開業披露。●石澤太作氏の開業。●成田高仁氏。●松坂幸七郎氏。大江忠三氏。●稻崎重助氏。●山内馨二郎氏。●佐藤武氏。●那谷與一氏。●若槻芳隆君。

○會 告

●校外特別會員會費領收調書。



雜纂

●南へト志ス醫師ハ如何ナル疾病ニ

就キテ智識ヲ要求スルカ

醫學士 大野 禧 一

ソレ人ノコノ世ニ生ル、ヤ生活ハ實ニ渠ガ主要切實ノ問題ナリ。是ニ於テ乎生活ノ難キ地方ヲ去リテコロンガ易キ場所ニ移リ供給少キ土地ヲ捨テ、産物多キ沃地ニ就ク斯クノ如キハ天地自然ノ原則ニシテ恰モ水ノ低キニツクト一般天下何物ヲ以テスルモコノ勢ニ抗スルコト能ハザルナリ。於是乎殖民ハ凡ソ人類ノ世上ニ顯ハレテ以來常在性ノ現象トナリス。而モ近時交通ノ利便天險ヲ制服シテヨリ人類ノ殖民的動搖ハ澎湃トシテ其ノ勢ヲ逞フシ各國ノ政府ヲシテ殖民政策ノ研究ヲ餘義ナクセシメ、社會政策ノ適用ト共ニ將ニ來ルベキ新時代ノ一大問題タラシメントス

蜻蛉ノ州。芙蓉ノ峰ノ懸ガル所、琵琶湖ノ水流ル、ノ邊、沃野饒カナラザルニアラズ山水美ナラザルニアラズ、而モ人ノ茲ニ集マルモノ實ニ五千有餘萬、渠等ガ生活ノ要求ヲ充スニハ餘リニ狹隘ニ渠等ガ活動ノ天地トシテハ餘リニ細小ナリ、是ニ於テ乎南、臺灣ヲ攫取シ西、朝鮮ヲ併合シ北、樺太ヲ領シ。尙進シテ南滿洲ヲ吾ガ勢力範圍ニ入ル、ニ至レリ。西人或ハ吾國民ノ進略的性質ヲ云爲シ又吾邦歴史的信念ヲ發現ヲ號叫ス。我ニ於テハ唯生活問題ノ結論ノミ、唯人口問題ノ展開ノミ。

近クハ人口増殖ノ比例ト物資需用ノ遞率トハ領土膨脹ノ比例ト物資供給ノ歩合トヲ超過シ、金融必迫シテ途ニ財政難ヲ聞キ官人肥馬輕裘シテ土民衣食給セザルノ難アリ。斯クノ如キ事情ハ吾邦民ヲシテ益々殖民ノ必要ヲ自覺セシメ樺太ニ、朝鮮ニ、滿洲ニ支那ニ。印度ニ南洋ニ南米ニ亞弗利加ニ。凡ソ氣候ノ如何ト風土ノ如何トヲ問ハズ、生活ノ容易ト賃金ノ吾國ニ比シテ多大ナル所アラバ喜ンテコレニ赴クノ勢ヲ生ジ、ソノ比例之ヲ十年以前ノソレト比較スルニ一〇ト一トノ如シト。嗚呼吾ガ邦民誰レカ吾ガ山水ヲ愛セザラン。而モコノ愛スベキ山水ヲ捨テ、身ヲ羶癘ノ土ニ委スルモノハ一身ト家族トノ生活ヲ思ヘバナリ、嗚呼吾ガ官人誰レカ陛下ノ赤子ヲシテ異邦ニ放チテ風土ト戰ハシムルヲ欲セシ。又事情已ムチ得ザルモノアレバナリ。

ソレ吾ガ邦、殖民ノ趨勢斯クノ如クニシテ國內ノ情況亦以上ノ如クナリトセバ、吾ガ政府ハヨロシク一方ニ移民ヲ獎勵スルト共ニ他方ニ於テハ各地ニ駐在醫官ヲ設置シ以テ是等移民ノ衛生的監督ニ任ズベキナリ。是レ吾邦近時醫事雜誌紙上各地駐在醫官設置必要ノ說アル所以、而モ吾ガ衛生官廳コレヲ察スルノ明ナクコレヲ行フノ能ナクシテ、却テ民間海外異邦ニ赴クノ醫師多數ナルヲ聞ク。統計之ヲ五年以前ニ比スルニ正ニ四倍セリト。誠ニ邦家ノ爲メニ慶スベキナリ。

予職ヲ北米合衆國ノ領下比律賓ノ政廳ニ奉ズルヤ、親シク殖民地ノ經營ヲ視、飄テ吾ガ邦殖民ノ趨勢ト吾ガ邦政府ノ方針トニ鑑ミ當ニ醫人ノ蹈ムベキ職責ヲ自覺スルト共ニ、吾ガ邦移民住各地ノ疾病ヲ調査シコレヲ南ヘト志ス醫師ニ報セントシテ未志ヲ果サズ。而モ船舶ノ醫師ニシテ吾ガ研究所ニ見學スルモマニ未ダ嘗テ目ヲ熱帶病學ノ一頁ニカニ觸レシメザルモノアルヲ見テハ邦文熱帶病學ノ必要ヲ感ズルヤ切ナリ。則チ閑ヲ窺シテ之ヲ編シ敢テ剖脈ニ付シテ江湖ニ問ハントス。而モ今比律賓ニ於ケル疾患統計ヲ羅列シコレヲ他ノ熱帶地疾患ト對比シテ、凡ソ南ヘト志スノ醫師ハ疾病

ニ就キテ如何ナル知識ヲ要求スルカナ知ラシム。決シテ益ナシトセズ。

予ハ國立研究所ニ出勤シツ、熱帯病ヲ觀察スルノ便宜ヲ得ンガ爲メ比律賓總督府設立ノ「シビルホスピタル」(總督府病院今研究所ノ隣地ニ移轉シテ比律賓一般病院ト稱ス)並ニ總督府監獄病院ノ「クリニツク」ヲ分擔スルコト各一年有半、多少ノ經驗ヲ積ムヲ得タリ。甲ハ總督府官吏ノ病院ニシテ多ク白人ヲ診シ、乙ハ比律賓群島各地ヨリ蒐集セル土人ノ囚徒ヲ療ス。今二ツノ病院ニ於ケル疾患中ノ重ナルモノヲ對比スルニ左ノ如シ。

第一表

「シビルホスピタル」病院内科疾患類別表
 千九百〇八年七月一日ヨリ千九百〇九年六月三十日ニ至ル

患者總數	二〇八八	一〇〇、〇%
腸炎	四〇四	一九、三%
(内「アメラバ」性赤痢)	(一一四)	(六、〇%)
麻拉利亞	二六〇	一二、五%
脚氣	八八	四、二%
テング熱	六四	三、六%
結核症(内科的)	五二	二、五%
酒精中毒	四〇	一、九%
虎列拉	四〇	一、九%
腸室扶斯	三六	一、七%
細菌性赤痢	三六	一、七%
流行性感胃	三二	一、五%
痘瘡	二二	〇、五七%
其他		

第二表

「ビリビッド」監獄病院ニ於ケル全科疾患中重ナルモノ

千九百〇八年七月一日ヨリ千九百〇九年六月三十日ニ至ル

患者總數	三七〇五	一〇〇、〇%
肺結核	四六六	一二、四%
腸炎	二七一	
麻拉利亞	二六五	
阿片中毒	二五八	
氣管枝加答兒	二五一	
消化不良	一六二	
膿瘍	一二六	
秘結症	一二五	
脚氣	七九	
外傷	七六	
痔瘻	六五	
結膜炎	五五	
潰瘍	五一	
胃加答兒	四三	
假痘	三一	
虎列拉	三〇	
虎列拉菌攜帶者	二三	
其他		

本表中別二百〇五名ノ入院患者アリシモ疾患輕微ナル乎若シクハ他ノ疾痢ニシテ他ノ囚獄或ハ病院ニ轉送セラレ病歴ヲ缺クニヨリ全部ヨリ除去セリ
 以上二表ニヨリテ之ヲ觀ルニソノ白人タルト土人タルトト間ハズ多ク懽ムハ腸炎ニシテ白人ニ於テ殊ニ甚シトナス。コノ他監獄病院ニ於テ肺結核ガ疾患中ノ大多數ヲ占ムルハ注意スベキ現象ニシテ土人中該疾患ノ多キヲ

豫想セシムルト共ニ、吾等ノ經驗モ亦ソノ事實ナルヲ認メシム、腸炎中最モ多キハ單純性腸加答兒ニシテ「アメーバ」性赤痢コレニ次ギ細菌性赤痢モ少ナカラズ「アメーバ」性赤痢トノ比「シビルホスピタル」ニ於テハ「一四、監獄病院」ニ於テハ「一六ニアリ」。

腸炎ニ次ギテ多キチ麻拉利亞トス三日熱型最モ多ク惡性麻拉利亞コレニ次ギ四日熱型最モ少シ。其他移住民ノ多ク惱ムモノ脚氣、「デンク」熱、虎列拉、霍扶斯、流行性感胃等其ノ重ナルモノニシテ土着人ニ多キハ氣管支加答兒、消化不良、膿瘍、便秘(發熱ス)、脚氣、痔瘻、結膜炎、潰瘍、胃加答兒、虎列拉等ナリ。監獄病院ニ阿片中毒アルハ皆支那人ノ囚徒ニシテ阿片ヲ喫スルモノヲ皆牢獄ニ投セシニヨル。今以上掲ケタルニ表ヲ對照スルトキハ移住民ト土着土人トノ間ニ於テ如何ニ罹患係數ノ異ナルカチ知り得ベキト共ニ、土地ノ情況風土ノ如何ガ衛生的情態ノ異ナルニ係ラズ平等ニ何ヲ犯スカチ察知スベシ。

第三表

米國人ノ多ク惱ム疾患ト比律賓人

兵士千人ニ對スル罹患係數

疾患	米國		比人兵
	白人	黑人	
花柳病	二八九、六	—	五六、〇
麻拉利亞	一二三、九	—	▲二三六、九
デンク熱	九七、〇	—	一一、〇
下痢症	八五、二	—	三九、五
(赤痢)	七、三	六、七	一九、〇 ▲(一一、四)
癩疽及「フレグモ」	六九、一	—	二三、六
扁桃腺炎	五五、五	七五、三	二一、〇
氣管支炎	三四、二	三三、六	四五、五 ▲四二、〇

流行性感胃	二九、九	三一、一	四、七	三、七
酒精中毒	二九、四	三〇、三	一一、四	〇、九八
筋肉優麻質斯	二六、四	二五、六	四一、六	一八、〇
麻 疹	一六、一	一六、七	二、八	〇
關節優麻質斯	一四、〇	一三、三	二六、七	五、三
盲腸炎	四、四	四、五	二、八	〇、二
結核症	四、五	四、三	七、六	六、四
「ド」ヒイツチ	四、四	三、七	一八、	▲一二六四
腸壁扶斯	三、二	三、四	〇、六	一、七
肺 炎	二、一	二、一	一、五	▲二、七
虎列拉	〇、二	〇、一	一、五	▲〇、七
痘 瘡	〇、二	〇、一	〇、九	▲〇、三

其他

▲ハ皆比律賓人ノ多ク惱ム疾患ナリ

第三表ハ米國軍人軍屬ノ在島セルモノト比律賓義勇兵(土人)トノ間ニ於テ罹患疾病ノ如何ニ異ナルヤチ對比センガ爲メニ作レルモノニシテ米國人ノ軍隊ニハ花柳病最モ多ク麻拉利亞、「デンク」熱、腸炎、「フレンケル」、「フレグモ」ノ順序ナルニ反シテ比律賓人ノ兵士ニ於テハ麻拉利亞最モ多ク花柳病コレニ次ギ氣管支炎腸炎、皮膚疾患ノ順序ナルヲ知ル。吾人ハコノ表ヲ相對比シテ深ク研究スルトキハ米比兩軍隊ノ風俗衛生ト移住者素質ノ如何ナル邊ニ薄弱ニシテ土人抵抗力ノ如何ナル邊ニ顯ハル、ヤチ知ルコトヲ得ベク多大ノ趣味ヲ見出スベキナリ。

次ニ掲ケル第四第五ノ二表ハ是等疾患ト季節トノ關係ヲ示スモノニシテ白人ノ麻拉利亞罹患ガ土人ニ先ツト共ニ「デンク」熱ガ兩期ニ多ク、白人ハ土人ヨリモ腸炎ニ惱ムニ反シ、土人ハ多ク脚氣ニ犯サル、ヲ見ルベシ。白人ニ於ケル消化不良症ノ殘暑殊ニ比律賓ノ秋期ニ多キト、土人ニ秘結症、

多キハ吾人ノ注意ヲ呼ブモノナリ。土人ノ殆ンド悉クハ秘結症ニ罹レバ發熱ヲ來ス。筋癱麻質斯ノ秋期冬期(而モ氣溫華氏七十度下ラザル)ニ於テ土人間ニ多キハ習慣ト罹患トノ關係ヲ察セシムルニ足ル爾餘ノ疾患ニツキテハ予ハ之ヲ讀者ノ研究ニ委スベシ。

第四表

在比律賓合衆國兵士疾患ト季節トノ關係 (千九百〇八年)
各種疾患總數項中花柳病ヲ除ク

月	兵數	症例	死亡	症例	死亡	各種疾患總數ノ(重ナルモノ)					
						花柳病アル	マテ	下痢	癩	消	急
一月	二,三六七	二六,八〇	七,九〇	四三	一六	一六	一	四	一	一	
二月	二,四二一	一三,〇〇	三,九〇	一四	一五	一	四	一	一	一	
三月	二,九七三	二二,八〇	六,八〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
四月	二,四四五	二二,三〇	六,四〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
五月	二,九三三	二九,三〇	九,一〇	一四	一四	一	一	一	一	一	
六月	二,八七五	二九,八〇	八,二〇	一四	一四	一	一	一	一	一	
七月	二,八〇七	二六,三〇	七,五七〇	一四	一四	一	一	一	一	一	
八月	二,八三三	二四,八〇	七,六〇	一四	一四	一	一	一	一	一	
九月	二,八二二	二二,六〇	七,九一〇	一四	一四	一	一	一	一	一	
十月	二,八五五	二四,三〇	七,五二〇	一四	一四	一	一	一	一	一	
十一月	二,八六六	二〇,一〇	七,九〇	一四	一四	一	一	一	一	一	
十二月	二,八九二	一九,九〇	七,九〇	一四	一四	一	一	一	一	一	
合計	二,九一七	二四九,六〇	八〇,三〇	一四	一四	一	一	一	一	一	

第五表

比律賓義勇兵疾患ト季節トノ關係 (千九百〇八年)
兵數千ニ對スル比例

月	兵數	症例	死亡	症例	死亡	各種疾患總數(重ナルモノ)					
						花柳病アル	マテ	脚	秘	急	下
一月	四,四六六	七九,五〇	一五,四〇	一五	一八	一	一	一	一	一	
二月	四,六六八	八五,五〇	一七,七八〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
三月	四,九七五	一〇三,五〇	二〇,九〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
四月	五,六四〇	一〇〇,一〇	一八,一〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
五月	五,四二一	八八,五〇	一七,四六〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
六月	五,五二二	八八,〇〇	一七,七四〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
七月	五,二八三	八六,九〇	一七,七〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
八月	五,三三三	八五,六〇	一七,九八〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
九月	五,一七二	八三,三〇	一七,八〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
十月	五,六六七	八五,五〇	一七,七四〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
十一月	五,三〇八	八二,九〇	一七,七四〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
十二月	五,三〇一	八二,九〇	一七,七四〇	一五	一五	一	一	一	一	一	
合計	五,八五二	六八,八〇	一五,三六〇	一五	一五	一	一	一	一	一	

第六表

第六表ニハ監獄病院ニ於ケル全疾患ノ系統的區分ヲ示スモノニシテ外科疾患ニ比シテ如何ニ内科疾患ノ多キ乎ヲ知ルベキト共ニ内科疾患中寄生虫病殊ニ消化器病ノ如何ニ多キヤヲ察知スベシ

ピリビッド監獄ニ於ケル疾患類別表

千九百〇八年七月ヨリ千九百〇九年七月ニ至ル

實數 百分率

實數 百分率

寄生虫病
(呼吸器消化器)

九〇 二五

消化器病
(寄生虫病ヲ除ク)

六三 一八

結核症

四六 一一

傳染病
(花柳病ヲ含ム)

三三 一〇

皮膚病
(癩病ヲ除ク)

三七 八

呼吸器病(寄生虫病及
結核性ノモノヲ除ク)

三〇 八

外科(耳科産婦人
科ヲ入ル)

二六 七

眼病

二五

神經器疾患

七 一九

運動器病

四 一一

循環器病

三 〇

泌尿生殖器病(花柳病
及外科疾患ヲ除ク)

一八 〇

全身及血液病
(傳染病ヲ除ク)

一七 〇

全疾患總數

三〇五 一〇〇

本表中ニハ新ニ掲出サレタル入院結核患者二十名ヲ入ル

尙ホ次ニ掲ケル所ノ諸表ハ第六表ニ掲ケル所ノ疾患ヲ明細ニ記述セルモノ

ニシテ讀者コレニヨリテ如何ナル疾患力如何ナル比例ニ於テ比律實群島ニ

存在スルカヲ知ルコトヲ得ベシ

第七表

消化器疾患類別表

腸炎

二七一

腹膜炎(原因區分不明)

一七

急性及慢性腸炎

二二

急性及慢性肝臟炎

七

内小腸大腸炎

二〇

口内炎

六

譯)下痢症

四〇

加答兒性黃疸

二

急性及慢性赤痢

六九

齒齦炎

一

消化不良

一六二

肝臟癰

一

秘結症

一二五

腸飲頓

一

急性及慢性胃炎

四三

總計

六五五

第八表

結核症類別表

肺結核

四六六

結核性淋巴腺炎

一〇

全身結核症

六

結核性腹膜炎

二

結核性肺炎

一

腸結核

一

總計

四八六

第九表

循環器疾患類別表

心臟瓣膜症

一三

狹心症

四

心内膜炎

三

心臟血管硬變

一

心囊炎

一

總計

二二

第十表

傳染病類別表

麻拉利亞

二六五

内悪液性

二

脚氣

七九

假痘

三一

虎列拉

三〇

虎列拉菌攜帶者

二三

不明熱性病

一一

黴毒症

一〇

流行性感胃

八

淋疾

五

癩病

四

麻疹

四

種痘症

一

熱帶性「アフト」

一

腸窒扶斯

一

「フランボシア」

一

第十一表

神經疾患類別表

老衰

一五

偏頭痛

一二

腦出血

九

神經衰弱症

四

痲性相稱麻痺

四

脊髓硬變

四

運動性「アタキシ」

三

急性腦膜炎

三

麻痺性痲病

神經炎

腰痛

癩癩症

總計

第十二表

呼吸器疾患類別表

急性及慢性氣管支炎

喘息

肺出血

肺氣腫

肋膜炎

百日咳

肺壞疽

第十三表

運動機疾患類別表

急性癱瘓質斯

筋痛

第十四表

血液全身症類別表

惡性貧血

日射病

總計

第十五表

泌尿生殖器病

腎臟炎

三 暴燥病

三 神經痛

二 麻痺

一 脊髓後索硬變

七二

二五

一〇 葉性肺炎

九 肺充血

三 急性喉頭炎

二 氣管支肺炎

一 鼻加答兒

一 肺水腫

一 總計

三〇六

三六 急性關節癱瘓質斯

二 總計

二 筋痛

一一 「アノレキシア」

一 敗血症

一七

一三 膀胱炎

二

二

尿閉塞

第十六表

外科疾患類別表

外傷

痔核

陰囊水腫

睪丸炎(原因不記載)

陰囊糜爛

Chenisorl

筋炎

腫瘍

「パルツリシヨン」

乳嘴突起炎

包莖

血腫

第十七表

皮膚病類別表

膿瘍

「アテリギオン」

靜脈擴張症

濕疹

象皮症

「トリコフヒトシズ」

蛇行性匍行疹

「ドビーイツチ症」

囊腫症

二 總計

七六 痔瘻

二六 ヘルニア

一四 尿道狹窄

八 脫肛

六 脂肪腫

二 精系靜脈擴張症

二 脫臼

二 直腸周圍炎

一 尿瘻

一 骨髓炎骨炎

一 肉腫

一 總計

二五八

一一六 潰瘍(原因記載セズ)

八 癰疽

八 皮脂腺腫脹

四 癬疽

四 「ペンヒカス」症

四 帶狀匍行疹

三 尋麻疹

一 火傷

一 「チニアインブリカータ」

一

一

總計

二二二

第十八表

眼科疾患類別表

結膜炎	五五	「トラホーム」	一四
「オプタルミア」	一〇	鞏膜炎	七
縁内障	三	光彩炎	二
「アンブリオセー」	一	「カタラクト」	一
「スタフキローマ」	一	總計	九四

然レドモ以上掲グル所ハ總督府病院並ニ監獄病院ニ關スルモノニ過ギズ今予自カラ比律賓ニ於テ經驗シ若シクハ吾ガ國立研究所若シクハ比律賓師團熱帶病研究部或ハソノ他ヨリセル報告ヨリシテ比律賓ニ存在スル熱病トソノ存在セザルモノトチ對比シテ讀者ノ參考ニ供セントス讀者コレニヨリテ南洋及熱帶各地ニ於ケル疾患ノ如何ナルモノナルヤチ知ルコトヲ得バ又幾分ノ利益ナラズトセシヤ

第十九表

比律賓ニ於ケル熱帶病(區分法ハマンソンニ據ル)

一熱性ノ存在スルモノ	人ノ「トリバノソーマ」病(?)
麻拉利亞	「マスト」(目下消滅)
黒水熱「テンガ」熱	窒扶斯熱
地中海毒(マルタ)熱	日射病
不明熱病	流行性水腫
二原因不明全身病	
脚氣	
三腹部内臓疾患	霍亂
虎列拉	
無キモノ或ハ未ダ發見セラレザルモノ	

「カラアザール」

黃熱

姜虫病

細菌性赤痢

熱帶肝

急性黃色肝萎縮

ヒル下痢症

「ボノス」

四傳染性顆粒増殖病

癩病及「ガンゴーザ」症

潰瘍性「アラニエローム」

「ヴェルガバルアナ」

五動物性寄生體ニ因スル疾患

(A) 主トシテ循環系統ヲ犯スモノ

「マラリア」症

「ハマトビエーム」症

(B) 結締織ヲ犯スモノ

象皮病其他

「ヒラリア、ロア」

「リガラ、マンソニー」

(C) 主トシテ肺臟ヲ犯スモノ

肺「ヤストマ」症

(D) 主トシテ肝臟ヲ犯スモノ

肝臟「ヤストマ」症二種「クロノルナス」

「ツキンジス」及「フシオラ、パチカ」

「ボロセフアルス、アルミラツス」

再歸熱

「ロツキー」熱

「ベラグラ病」(近時之ニ類セル疾

熱帶性亞布登「スプル」

「フシローシス」

肝臟膿瘍

流行性壞疽性直腸炎

小兒性膽汁肝燥縮

「フランボシア」「ヨース」

「ガリインタルホイレ」

日本住血吸虫症

「ギニアウウホーム」

「ヒラリア、ボルブルス」

「スパルガヌム、プロリフェルム」

ニ因スル諸症

流行性咯血症

(E) 主トシテ腸管ヲ犯スモノ

鞭虫

十二指腸虫二種

有鉤性絛虫、無鉤性絛虫廣節裂頭絛虫、
「デニア、ナナ」蟻虫、
「ムム、ゴーリ」赤痢、
「バニ」因スル諸症

「ストロンギロイデス、ズブチリス」
「アンブスタームムワトソソニー」
「ジストーマブスキ」
「ヘテロビヘスヘテロビヘス」
「デニアマダガスカリエンジス」

六皮膚
(A) 傳染性ナラザルモノ
熱帶苔癬

(B) 細菌ニ原因スルモノ
「ボイン」症

(C) 植物性ニ原因スルモノ
「ミセトーマ」症
「ドービー」イツチ
「ビエドラ」症

(D) 動物性寄生虫ニ因スルモノ
疥癬症

七不明原因ノ局所病
比律賓ニアルモノ
「グリマチックプボー」症

蛔虫

「ストロンギロイデス」

「エツファゴストームムブル
ンブチ」

「ハイラカンツス、シアメンゼー」
「ガストロジシクスホミニス」
「フアシガロプシストラツイシ？」
「デニア、アフリカナ」
「デニア、アシアチカ」

傳染性「ベンヒグス」

「マデユラフリス」ヲ含ム
「チニアインプリカータ」症
「ピンター」症

砂蠅症

存在セザルモノ

「クロークロー」症

「アインフム」症

足巨大症

「チャツパ」病
鼻梁腫大症
「オニアライ」

次ニ掲グル第二十第二十一ノ二表ハ甲ハ馬尼拉市ニ於ケル死亡原因別最近五年間ノ平均ニシテ乙ハ比律賓義勇兵千九百〇八年死亡原因別表ナリ讀者コレニヨリテ熱帶地ニ於ケル死亡轉機ノ如何ナル疾患ニ如何ナル百分率ニ來ルヤヲ知ルベシソノ詳細ナル比較研究ノ如キ親シクコレヲ爲スニ從テ多大ノ趣味ヲ見出スベキナリ。

第二十表

馬尼拉市ニ於ケル死亡原因別表 (死亡者千ニ對シテ)
(衛生局報告最近五年間ノ平均)

一傳染病及全身病(二六七、六)

病名	千分率	病名	百分率
腸窒扶斯	一四、一	麻拉利亞	一六、四
痘瘡	〇、六	麻疹	〇、一
猩紅熱	〇、一	百日咳	〇、八
實扶帝利亞及格魯布	〇、六	流行性感胃	一、一
亞細亞虎列拉	四、六	霍亂	〇、一
赤痢	三六、五	百斯馬(目下消滅セリ)	〇、七
癩病	五、八	丹毒	〇、九
他ノ流行病	三三、七	膿毒症及敗血症	一、七
口蹄疫	〇、一	惡性膿泡疹	〇、三
結核症(總テノ結核)	一一、九六	瘰癧	一、〇
淋症	〇、一	黴毒	一、一
癩及其他人惡性腫瘍	四、一	癩麻質斯及痛風	七、九

糖尿病

〇、七

白血病

〇、二

貧血及萎黃病

三、九

他ノ全身病

〇、四

急性及慢性酒精中毒

〇、二

他ノ慢性中毒

〇、二

二神經及五官器ノ疾患(三四九、六)

腦炎

〇、六

單純性腦膜炎

三八、七

進行性運動器失調

〇、三

他ノ脊髓疾患

〇、四

脊髓癆

一、四

腦軟化

〇、八

麻痺症(原因不名)

〇、五

全身麻痺(原因ヲ擧グズ)

一、九

精神病

〇、六

癲癇

〇、六

小兒「ヒキツケ」

二八三、三

破傷風

八、九

舞蹈病

〇、二

他ノ神經疾患

一、一

眼及副器疾患

〇、二

耳疾患

〇、一

三循環器疾患(二〇、四)

心囊炎

〇、四

急性心内膜炎

二、四

他ノ器質性心臟疾患

一、一

狹心症

四、一

動脈痛動脈硬變其他動脈病

一、五

血栓及栓塞

〇、七

出血

〇、一

他ノ循環器疾患

〇、一

四呼吸器疾患(二〇〇、八)

咽喉ノ疾患

〇、八

急性氣管支炎

四〇、一

慢性氣管支炎

四一、六

氣管支肺炎

五、一

肺炎

六、七

肋膜炎

〇、四

肺充血及出血

二、二

肺壞疽

〇、一

喘息

三、五

他ノ呼吸器疾患
(但シ結核ヲ除ク)

〇、三

五消化器ノ疾患(一一七、二)

口腔及副臟器疾患

〇、二

咽喉疾患

〇、二

食道ノ疾患

五、〇

胃潰瘍

〇、九

他ノ胃疾患(胃癌ヲ除ク)

三、六

急性下痢及腸炎

七〇、一

慢性下痢及腸炎

三一、二

腸内寄生虫

〇、九

「ヘルニア」及腸壘重骸頓

一、四

他ノ腸疾患

〇、四

急性黄色肝臟萎縮

〇、八

肝臟「エロノコックス」

〇、一

肝臟萎縮

一、八

膽石症

〇、四

他ノ肝臟疾患

四、一

脾臟疾患

〇、二

單純性腹膜炎(産褥性
ニアラザルモノ)

二、六

他ノ消化器疾患
(瘰及結核ヲ除ク)

〇、一

盲腸炎及腸骨窩膿腸

〇、四

六泌尿生殖器疾患(一八三七)

急性腎臟炎

四、八

慢性腎臟炎

一一、〇

他ノ腎臟及副器疾患

〇、四

輸尿管結石

〇、一

膀胱疾患

〇、六

子宮實質炎(恐ラク
外膜炎ヲモ含ム)

〇、八

子宮出血(非産褥性)

〇、三

卵巣ノ囊腫及他ノ腫
瘍(癌ヲ除ク)

〇、三

七産褥性疾患(九、四)

産褥性蛋白尿尿變症

一、一

他ノ産褥死亡

〇、四

妊娠死

〇、二

産褥出血

三、四

分娩死

三、〇

産褥性敗血症

五、〇

八皮膚疾患(〇、八)

癩疽

〇、二

皮下蜂窩織炎

〇、二

他ノ皮膚及副器疾患

〇、四

九運動器疾患(〇、六)

非結核性骨疾患

〇、五

筋炎

〇、一

一〇不具症(一、三)

先天性不具症(但死産兒
ヲ除ク)

一、三

一一初生兒疾患(四八、六)

先天性薄弱黃疸
スクレンーマ
四〇、六
他ノ初生兒疾患
四、七

瀦育缺亡
三、三

一 二老人病(二〇、七)
二〇、七

一 三外部ノ原因ニヨルモノ(一三、九)
〇、一

毒藥自殺
〇、一

ピストル自殺
〇、一

骨折
一、一

火傷
一、四

水死
二、七

他ノ急性中毒
〇、九

一 四死亡因不明(三〇、一)
三〇、一

比律賓義勇兵ノ死亡原因別

死亡原因 死亡數 兵數千ニ對シテ死亡疾患中ノ%

脚氣 七 一、三五 二四、一、三

結核 二〇、三八 六八、九

心臟疾患 二〇、三八 六八、九

肝膿瘍 二〇、三八 六八、九

瘡瘡 一〇、一九 三四、四

瘧毒 一〇、一九 三四、四

腸胃加 一〇、一九 三四、四

膽石症 一〇、一九 四四、九

他ノ初生兒疾患
四、七

瀦死
〇、二

他ノ自殺
〇、一

他ノ外傷
五、九

電氣感應シツヨク
三、〇

餓死
〇、六

暴力死
五、〇

死亡原因 死亡數 兵數千ニ對シテ死亡疾患中ノ%

虎列拉 四 〇、七七 一三七、九

瘧 二〇、三八 六八、九

肺炎 二〇、三八 六八、九

麻拉利亞 一〇、一九 三四、四

霍亂 一〇、一九 三四、四

急性心 一〇、一九 三四、四

内膜炎 一〇、一九 三四、四

肝硬變 一〇、一九 三四、四

第十表ニ於ケル小兒癩癩症死亡原因ニ就キテ同僚ギルマン等ガ施シタル趣味アル病理解剖的細菌學研究アリ。比律賓ニ於ケル出産死亡統計ヲ叙シテ

吾ガ小兒科醫ニ激ス」トシテ去歲是ヲ醫海時報ニ投ゼリ就テ看ルヲ要ス。予ハ如上叙スル所ニヨリテ比律賓ト他ノ地方トニ於ケル熱帶病ヲ對比シ、ソノ人種的關係ヨリ季節ニ對スル影響並ニ罹患率ト死亡率トヲ詳細ニ論ジ凡ソ熱帶病トハ如何ナル疾患ヲ指スヤヲ述ベタリ。讀者コレニヨリテソノ大體ヲ知り以テ熱帶病論ヲ繙カバ多大ノ參考ナラズトセズ。

武漢ニ於ケル革命ノ導火一度ビ點セラレテヨリ支那四百餘州ハ驟ニ長蛇ノ眠ヨリ醒覺シ一新興國民トシテ大ニ活動スル所アラントス。

コレヲ市場トセル外邦ハ獨ニ米ニ英ニ佛ニ虎視耽々恰モ世界ノ一大寶庫ヲ監視スルガ如シ而モ退テ思フ支那帝國ノ富ハ果シテ斯クノ如キノ注意ヲ値スルヤト。之ヲ最近ノ統計ニ見ルニ支那ニ於ケル人口ハ約四億ニシテ廣袤僅ニ四百二十八萬方哩一年ノ輸出入貿易額ハ六億七千萬「テール」ニ過ギズ。之ヲ南米ノ廣袤五百五十萬方哩ニシテ人口四千萬ニ達セズ而モ一年ノ輸出入貿易額四十億圓ニ達セントスルノ市場ニ比シテ如何。カルフォルニアノ金鑛ハ昔日ノ夢ニシテ今ヤ一年僅ニ三千萬圓ヲ産スルニ過ギズシテ北米合衆國ノ金穴タルアラスカ金鑛ノ金産額ハ吾ガ本州ノ金産額ヲ超過スル

一億ニ之ヲ阿非利加トランスバールノ世界産金額ノ過半ヲ占ムルモノニ對シテテ果テ如何比律賓ハ天然ノ米産地ニシテ世界靡ノ大産出地タリ。又眞珠ノ床ト稱ス。濠洲ハ廣袤支那ノ四分ノ三ニシテ人口僅ニソノ百分ノ一ニ過ギズ而モ一年ノ輸出入貿易額ハ十二億圓ニシテ殆ンド支那ニ倍捷シ沃野曠山相繼重シテ人ノ來リ開拓スルヲ待ツモノ、如シ。之ヲ殖民的並ニ商業的發展ノ市場トシテ見ル。何レガ大ニシテ何レガ小ナル。近時吾ガ殖民ノ傾向南洋ヲ分支點トシテ東ハ南米ヨリ南タスマニア及ビ今ヤ阿弗利加南海岸ニ及バントス。自然ノ趨勢良ニ故アルナリ。

獨逸前殖民大臣テルンナルグ吾ガ殖民政策施設ノ跡ヲ調査シ評シテ曰ク日本人ハ殖民地ノ經營ニ成功セリ。而モ是等殖民ノ熱帶地ニ出テタルモノ之ヲ獨逸人失敗ノ例ニ照スニヨク風土ニ「アツパツセン」シテ最終ノ勝利ヲ

得ルコト甚ダ困難ナリ。要ハ是等殖民ノ指導監督如何ニアリト。海外ニ於ケル殖民成功ノ動機ハ實ニ疾病ニ犯サレザルニアリ。然ラバ商業的ニ指導スルハ吾ガ外務官署ノ任務ナルト共ニ、コレガ衛生的監督ハ實ニ南ヘト志ス醫師諸君ノ職責ナリト謂ハザル可ラズ。諸君ガ拓ク可キ醫學的原野ハ茫漠トシテ際涯ナク、諸君ガ療スベキ陛下ノ赤子ハ箆齏壺漿シテ諸君ノ來ルヲ待テリ。往ケ絶東ノ快男兒卿ガ居チ占ムベキハマモンノ山、煙タナビグ所、ケープタウンノ北、夜光球光ルノ涯リ、アマゾンノ流レ洋々タルノ邊ニアリト知ラズヤ。

●「サルブルサン」ト改良

(ネオサルブルサン)

「サルブルサン」ノ發見以來。エールリッヒ氏ハ是レガ改良ニ就テ百方苦心ノ結果、終ニ一種ノ化學的操作用ニヨリ、一新劑ヲ製出スルニ至レリ、本新劑ハ容易ク水ニ溶解シ、其水溶液ハ純正中性反應ヲ呈ス、従前ノ「サルブルサン」溶解ニ就テコレニ使用スルニ亞爾加里液ノ濃度乃至分量ニ於テ往々過誤アリテ爲メニ注射部或ハ遠隔部ノ血塞ヲ起シ、或ハ甚ダシキハ稀レンタルモ出血性腦炎ヲ起シテ死ヲ招ケル等ノ不快偶發スモシ右ノ新劑ヲ用ユルトキハ少クモ從來亞爾加里誤用ノ爲メニ起リシ不快事ハ全クコレヲ避ケルヲ得ベシ、「ベツクスト」色素會社ハ本新劑ニ「ネオサルブルサン」ト命名セリ、エールリッヒ氏ハ先ツマクテブルグノシユライバー氏ヲシテコレヲ實地ニ試験セシメタリ、氏ハ昨年十月以來本新劑ヲ已ニ二百七十例ノ患者ニ試ミ「サルブルサン」同様ノ効果ヲ見其副作用ハ「サルブルサン」ヨリ少ク殊ニ神經再發症ハ未ダコレヲ見ズ、一般ニ「サルブルサン」ヨリ優良ナリト云ヘリ氏ノ使用法ハ亞爾加里及ビ食鹽水チ一切用ヒズ新鮮ノ蒸餾水チ單純ニ煮沸消毒シテ冷却シタルモノニ溶解シテ靜脈内ニ注入スルニアリテ従前ノ

「サルブルサン」溶解法ニ比シテ遙方ニ單簡ナリ、尙氏ハ此中性水溶液ヲ筋肉内ニモ試ミ好結果ヲ得タリト云フ、エールリッヒ氏ハ但シ筋肉内注射ハ尙ホ多クノ實驗ヲ要ストノ意見ナリ、新製劑ハ其重量ノ關係上從來ノ「サルブルサン」ニ比シテ一倍半ノ用量ヲ要スル割合ナルカ如シ、エールリッヒ氏ハ尙當分有力ナル實地家ノ試験ヲ行ハシメ其後ニ於テ一般ニ發賣ヲ許ス積リナルガ如シ、若シ多數ノ實地家ニシテ良好ナル成績ヲ擧ゲ得タランニハ蓋シ「サルブルサン」療法ノ普及上一大進歩タルヲ得ベシ。

漫 録

●温泉調査隊

調査隊出發
一月廿一日

我藥學二年生全員三十餘名は全日に二隊に分れて目的地たる山中温泉へ出發した。朝八時十八分發で半員、他半は十二時何分の列車で出立した、隊員を次の如くに色別けた。

- 一、ビュレット分隊、
- 二、ピペット分隊、
- 三、コルベン分隊、
- 四、ペーヘル分隊、
- 五、試薬分隊、

此の外輜重隊には寒暖計、漏斗、蒸餾水、等が附屬して居た、乗車前には各々中々大氣焔であつたが「カー」に入ると同時に皆口を緘んで顔色稍灰白色さなつた、(比較して)

原因は袋線の大動搖にあり

袋線は北陸線だけであつて速力の少ななるに反比例して列車の左右上下に思ふ存分搖れるので隊員所持の諸器械の破壊を恐れるからだじつくり腰へ懸れる體だ、それもその筈、一本三圓餘りの「ビュレット」でもコッソリと行つたら大事ぢや、誰を見ても皆塚や硝子管のみにアッテンションを拂つて居る、他の乗合の手、プツな人々から見たら定めし滑り稽の光景であつたるうと獨りて笑つて居た、松任あんこの聲もいつしか聞きこられて最早大聖寺! 大聖寺!! と殊に大の字に「アクセント」を強めた北國訛で云ふ音にやがて「プラトホーム」の人となり遂に山中行のガタ馬車中の人となつた、此のガタ式にもホトホト閉口した、然し何一つ破れなかつたよ、先發隊の着いたのが正午であつた、

旅館は彼地一流の扇子屋であつた。

金澤醫專温泉調査隊宿舍扇子屋別荘

と馬車會社の出口に四角い字で麗々しく書いてある中々響が大きい、

後發隊の着いたのが三時半頃だ、金澤よりは餘程寒さが強い先づ不取敢靴を脱ぐ早々總湯へズリ込んだ浴客は割合に少なかつた、一ヶ月送りの正月間際であつたからこの事である、浴後火鉢を圍んで空腹を耐へて番茶をス、ツて話した、正面の床の上には行々しく各分隊が持參せられたる器械や壘や試薬が正しく列べてある、分析室の一部分を形作つた觀がある今迄宿の女中が普通一扁のへ、ホ書生視してロクに有難がらぬ様子であつたがツ、床のツイを拜むよりは大に敬々しらしい、中には機械の名や薬の名を一つ一つ聞いた殊勝者も居つた、

電氣が点いても中々メシにならぬ、若干不平の聲も聞けたがしかたがな

い、膳の音がするを黙つて席についた、全部喫飯の終つたのが七時近くであつた。少時の後脇坂教授から明日調査の順序、温泉汲取上の注意、原泉の調査法、等に就いて精しい説明をせられた、終ると同時に

香林會新年大會開會

と當番幹事の揭示に因つて知つた、開會の辭に續いて數番の演説と二三種の餘興を演じた、その間に幹事諸君の奔走に依つて金澤でも容易に得られざる如き山中特産の銘菓と香茶が開展せられた、朝來の疲勞も一浴の靈湯に治せられた、談論風發意氣不可當とは正に將に之なる哉!!! 之なる哉!!!

いつ閉會とも見ぬざりしが時針正に深刻を指すの時幹事の發聲に連れて一同香林會萬歳を三度唱和して樂しき「ベッド」中の神さ化し去つた、

東天紅の頃ほひから裏の藥師山から鴉軍の來襲を受け喧ましい事限りなした、ホツく床を蹴起さて蟋蟀橋に行くあり白鷺の湯に將た一錢湯に浮ぶあり又氣早の連中は分析の用意に取掛つた、朝飯の終つたのが八時頃だ、直に三谷屋に赴いて原泉の汲取及び調査に着手した各員交代で分析試験をなした、全く豫定の如くになし終つたのは一時頃であつた、その順序方法は大事次頁の如しだ、

それより自由行動となり各々山中特産の塗器や名所繪端書を買つた、四時に又再びガタ式で山中を發した、大聖寺に着いた時には夜の銀色の星がアス、コ、にキラ、キラして居た、往道に忘れた名物あんこのを今度は澤山買った、歸校したのが九時であつた。

(此稿二月廿四日N、T生記)

次に簡單に同上試験の一通りを記さん、該稿を草するに際し越知兄の多大なる助力を興へられしを大に多とするものなり、尙本試験の發表の遅れしは同上試験の引續き行ふを得しにより従つて其の結果を全く求められざし故今日迄延引せし以所なり諸兄幸に之を諒せられよ。

● 鑛泉湧出地ニ於ケル試験

I. Farbe des Mineral wasser.

同大同高ノ Cylinder ノ一個ニ Mineral wasser チ入レ他ノ一個ニ蒸餾水チ入レ下ニ白紙ヲ敷キテ上部ヨリ及ビ横面ヨリ之ヲ視ルニ微ニ褐色ヲ呈ス。 Mineral wasser チ Bechdel ニ入レテ一日間暗所ニ静置シ器底ニ微ニ沈澱ヲ生ズルヲ見ル之ヲ顯微鏡下ニテ檢スルニ及ビ Unorganischsubstanz 及チ Infusoria 下等植物等ヲ認メス。

II. Endviols gasformish.

内容 25.00°C. ノホルレンマイエル氏「コルマン」ニ半分量ノ Mineral wasser チ注意シテ、注ギ栓ヲ施シテ振盪スルヲ透視スルニ瓦斯ノ發スルヲ認メ。

III. Geruch.

源泉ノ湧出所及チ Mineral wasser ノ SH_2 ノ臭氣ヲ發ス。

III. Geschmack.

Geschmack ン微ニ收斂味ヲ有シ炭酸含有ノタメ一種云フスカラザル清涼ノ感ヲ覺チ、

V. Temperatur.

大硝子壺中ニ檢溫器ヲ入レテ鑛泉中ニ沈メ凡十分時間ノ後之ヲ引上ゲシニ溫度 45°C. ニテ大氣ノ溫度ハ 4°C. ナリキ。

VI. Reaktion.

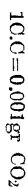
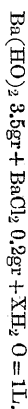
Phenolphthalen ニン赤色ヲ呈シ Laktmus Lösung チ青色ニ變ス。之ニ依テ見レニ即チ Alkali 性反應ナリ。

VII. 湧出地ノ情况

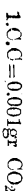
人家ノ床下ニ凡四五方尺ノ廣サニ於テ絶エス湧出ス。

VIII. 炭酸ノ定量 (有遊及ビ半結合炭酸)

I. Reaktion des Mineral wasser mit $Ba(OH)_2$ Lösung.



II. " " " Oxalsäure Lösung.



III. $BaCl_2$ wasser Lösung (1:10).

Mineral wasser 100.C.C. チ「カクット」ニ「コルマン」ニ取リ取テ $Ba(OH)_2$ 45.C.C. + $BaCl_2$ Lösung 5.C.C. チ加ケ十二時間保持シ 50.C.C. ノ $Ba(OH)_2$ ノ消費ヤシ量チ Oxalsäure Lösung ニテ定置ス。

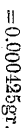
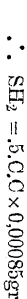
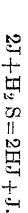
IX. 硫化水素ノ定量

Reagenz. I. Jod $\frac{1}{100}$ Normal Lösung.

II. Stärke Lösung.

III. Cl_2 Od Lösung (1:10).

(I). 200.C.C. ノ Mineral wasser チ Pipett ニテ Bechdel 中ニ入レニ二三滴ノ Stärke Lösung チ加ノル後更ニ Jod $\frac{1}{100}$ Normal Lösung チ注加スルキニ脱色中和ス。



(II). Mineral wasser 200.C.C. チホルン「コルマン」ニ取リ Cl_2

Od Lösung 5.C.C. チ加ケテ静置スルニ SH_2 ノ Cd 化合物ニテ硫化「カドミウム」ヲ生成ス。次亞硫酸ハ溶存スルヲ以テ持チ歸リ試験室ニテ SO_3O 卜次亞硫酸チ定量セリ。

X. 亞酸化鉄

Reagenz.

I. Oxalsäure $\frac{1}{100}$ Normal Lösung.

II. Kamelleon $\frac{1}{100}$ Normal Lösung.

III. Schwefelsäure (1gewth $\text{SO}_4 \text{H}_2 + 2\text{gewth } \text{H}_2 \text{O}$).

100.C.C. Mineral wasser ナ Bechel ニ取リソ₄H₂一二滴ヲ加ク
煮沸シテ「ウツンナ」モリ K₂MnO₄ノ Normal Lösung ヲ注加スルニ
0.5C.C.ヲ消費セリ故リ FeO=0.0072×0.8=0.005702. 實驗室ニテ行ヒ
分(定性)。

SH₂

Mineral wasser ナ試験ニ取リ醋酸々性アミチ Pb C₂ O₂ H₂ ニテ黑色ノ
SPD ナ生シ又ハ硝酸々性アミチ NaNO₃ Ag ナ加フニ黑色ノ SAg ナ作ル。
CO₂

Mineral wasser ナ試験管ニ取リ(HO)₂ Ba Lösung ヲ加フルニ白色ノ沈
澱ヲ生ス。OH ニ溶解ス。盛ニ泡ヲ發ス BaCO₃ ナリ。
SO₄ H₂

Mineral wasser ナ試験管ニ取リ鹽酸々性アミチ Cl₂ Ba Lösung ヲ加フル
ニ白色ノ沈澱ヲ生ス。此ノ沈澱ニ HCl Säure ニ Urinsäulich 又 König
wasser ニモ同様ナリ之即チ SO₄ Ba ナリ。
Cl₂

Mineral wasser ナ試験管ニ取リ硝酸々性アミチ NO₃ Ag ナ注加スルニ
白色ノ沈澱ヲ生ス。之ノ沈澱ヲ Skure = Urinsäulich, OHNH₄ KCN 等ニ
ク Löslich ナリ。
SiO₂

250.C.C. Mineral wasser ナ白金蒸發皿ニ少シク入レ水浴ニテ蒸發乾
固セシメ之ニ HCl ナ加ヘテ煮沸シ乾固セシム之ヲ餾水 250.C.C.ニ溶カ

ス時ハ器底ニ沈澱ヲ作ル之即チ SiO₂ ナリ。沈澱ヲ Borax ニテ檢スルニ
OSi₂ノ反應ヲ呈ス。

1. Mineral wasser ナ試験管ニ入レテ Verd. HCl ナ注加スルニ何等ノ
反應ナシ (1gruppe ナシ)

2. 上液ニ SH₂ gas ナ通スルニ何等ノ反應ナシ (2gruppe ナシ)。

3. 上液ヲ煮沸セシメテ SH₂ ナ飛散セシメテ CHNH₄ 及 Cu NH₄ OH ナ加フ
ルニ反應著シカラズ。Fe ナ含有ノ疑アリ。 (3gruppe Fe?ナリ)

4. 上液ヲ過過シテ S (NH₄)₂ ナ加フルモ反應ナシ

5. 上液ヲ SH₂ ノ臭ナキ迄煮沸シ NH₄ Cl + NH₄ OH ナ加ヘ更ニ CO₂
(NH₄)₂ ナ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ス之ヲ濾過シ沈澱ヲ HCl ニ溶カ
シ之ニ NH₄ OH ナ加フルニ反應アリ之ニ (NF₃) CO₂ ナ加フルニ白色
ノ沈澱ヲ作ル。之 Ca ナリ (4gruppe = Ca ナリ)

6. 上液ノ濾液ヲ四々ノ試験管ニ分テ次ノ試験ヲナシ。

(I). CHNH₄ + NH₄ OH + Na₂ HPO₄ ナ順次ニ注加スルニ PO₄ NH₄
Mg ノ白色結晶性ノ沈澱生ス。之ヲ鏡下ニテ檢スルニ明カニ Mg ナリ
ナリ。

(II). Cl₂ H₂ O₆ Lösung ナ加フルニ白色結晶性ノ Cl₂ H₂ O₆ K ナ沈澱
ニ K⁺ 存在ヲ知ル。

(III). K₂ H₂ SPO₇ Lösung ナ加フルニ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス。Na
ナリ。

(IV). Na₂ CO₃ ナ加フルニ何等反應ナシ (5gruppe Mg, K, Na).
Mineral wasser ニ Natrialische Reagenz ナ加フルニ反應ナシ。

(此稿三月十日 N. T. 生記)

● 噫ロード、リスタア

制腐外科を創始し外科學上一新紀元を開きたりし絶世の偉人「ジョセフ、リスタア」卿は、肺炎を病むこゝに僅に四日、明治四十五年二月十日午前八時十五分八十五歳にして薨去せらる。噫哀哉。

It is not a profession, it is nation, it is humanity itself which, with uncovered head salutes you!

是れ駐英米國大使「メヤード」氏が英國學士院の晚餐席上「ロード、リスタア」の學德偉業を讚美したる名句なり、洵に然り正に之れ萬人の言はんとする處を言へりしものならずや、學德を讚美し偉人の偉業に感謝するの道を識る英國の上下は、卿を有するを以て誇りし尊敬優遇至らざるなく、遂に貴族に列せられ絶代の榮譽を賜はる。蓋し學徒にして此光榮に浴せし者、卿を指て他に之あるを聽かず。

世界は多くの偉人を生めり歴史は幾多の偉業を傳ふ、然共千載の下克く衆庶をして其偉業に讚美し其德を仰かしむるもの果して幾何かある、我が「リスタア」卿の偉業に至ては眞に是れ偉中の偉なるものにして、當に濟生の勳績の赫々たるの點に於てのみならず、堅忍不拔確固誠實の信念を以て學路を辿らば、克く眞理を闡明するを得るものなることを示したるの點に於て共に相比すべきもの世に甚だ勤し、今や卿が訃に接し痛惜天に哭するもの豈獨り醫人のみならんや、豈單り英國の人士のみならんや、豈現代幾億の人類のみに限らんや。

「ジョセフ、リスタア」卿は、一八二七年四月五日倫敦の近郊「エセッキス」郡の「アプトン」に生る、幼にして「トテナム」に於て初等教育を受け、長するに及で倫敦「ユニヴァシテイ、カレッジ」に入り文學并に醫學を修め、一八四七年文學得業士、一八五二年醫學得業士の稱號を享く、此年十二月英蘭主王立外科學士會々員たるを得たり、爾來母校「ユニヴァシテイ、カレッジ」

「ヂ」附屬病院に當直醫として専ら組織學并に生理學に關する研究に耽り、此間屢々業績を發表したり、卿が處女業績は「虹彩收縮組織の觀察」なる問題にして、同病院に於て手術したる患者より獲たる標本に就て詳細なる研究を遂げたるものなりき、次に發表したる報文は、「皮膚の筋組織に就て」なる論文にして、彼の有名なる「エレンキェン」氏の助手たりし時に成れるものなりや。

遇々其秋休暇に際し、教授「シャアペイ」より教授「サイム」に宛てたる紹介狀を携て「スコットランド」に旅行し、「エテンバラ」大學に「サイム」氏を訪いたりしが、北國の風光卿の心を曳きしが「サイム」氏の德風卿が心を動かしたるか、卿は遂に父君の許諾を請願して「エテンバラ」に駐まるに決し、「サイム」氏の許に下級助手として研究するとなり、幾もなく擧げられて助手の職に上れり、一八五六年「サイム」教授の令嬢と結婚の典を舉ぐ、其後王立「エテンバラ」療病院の副外科醫を命ぜられ、且つ同大學より私講師たるの認許を得、學生教授の任に膺り、後一八六〇年「グラスゴウ」大學外科教授の椅子を獲る迄依然として其職務を繼續したり。

始めて外科醫として世に立てるの時より深く卿が膺裡に印せられし感象は、外科手術に伴ふ死亡數の多大なる事實にありき、當時にありては殆ど凡ての外科手術を受けたる患者にして、所謂外科熱と唱へられたりし發熱を見ざるものなく、術者亦術後患者の豫後良好なるべきを期待するものなきの状態なりし也、遇々巴里の「バストゥル」は、醗酵及腐敗は、當に單純なる化學的變化のみにあらず空氣との觸接に依て助成せらるゝものにして、主として么微生物の作用に歸すべく、最も腐敗醗酵し易き液體と雖も、此種の么微生物を混有せざる時は決して腐敗醗酵に陥るものあらざるを喝破するや、卿が炯眼忽ち此新知見に閃き之を捉て以て人生の福音を此間を探らんとしたるなり、百續の明鏡の如き卿が鋭敏なる膺裡に映じたりし最初の像は、此理を利用して既に創傷に闖入したる凡ゆる病芽を殺戮し、且つ

新に襲來する外敵を防止せんとするの企圖なりき、爾來克苦精究を重ね、案出したるものを石炭酸の應用にして、これぞ五十年後の今日吾人の襲踏しつゝある制腐外科の礎石たりし也。

一八六三年卿は王立學士院に於て「血液の凝固に就て」なる表題にて講演をなし、次て一八六五年四月、一八六三年—一八六四年の兩年間王立「グラスゴウ」療病院に於て、卿が案出したる方法を應用して手術したる例に就ての報告を公表し、石炭酸を應用したるを述べたりしが、此報告は只僅かに石炭酸を燒灼的に使用したるを發表したるに止まりしのみ、次て一八六七年三月十六日、二十三日、三十日並に四月二十七日及び七月二十七日發行の「ランセット」誌上「複雑骨折及び膿瘍其他の新治療法」なる表題の下に、四回に亘りて自家創案の制腐的制腐外科治療に就て詳説したり、これぞ世界の外科史上新紀元を開きし偉績の第一報告と見做すべきものにして、卿は今も世人の熟知する所謂「リスタア」制腐處置に就て詳細に説明したり、一八六七年八月「ダブリン」に開かれたる大英醫學會の席上、卿は「外科的治療に於ける制腐主義」に就て論じ、一八六九年四月三日發行の「ランセット」誌上「制腐式を以てする動脈結紮の所見」なる表題の下に五十一歳の婦人の股動脈瘤に、石炭酸に浸したる絹絲を用て左外腸骨動脈の結紮を施したる證例に就て論じたりき。

一八六九年「サイム」教授其職を退くや、卿は其倚手を襲きて「エチンバラ」大學臨床外科の教職に就けり、此時代に卿は彼の石炭酸噴霧の下に創傷の處置を施すの法を案出したる、一八七〇年一月一日同日發行の「ランセット」誌上「外科病院の健全上に及ぼす制腐的處置の效果に就て」なる論文を掲げ、「グラスゴウ」療病院に於ける創傷傳染病豫防上の著名なる成績の一端を漏らしたり（此發表を妨ぐるものあり其全部を發表する能はざりしなりと云ふ）、一八七一年八月「プリマス」に開催されたりし大英醫學會に於て、卿は「外科的處置に於ける制腐式に就て」講演し、且つ其考案に成れる

石炭酸噴霧器、硬膏及制腐的裝創材料を供覽したり、一八七五年三月十三日の「ランセット」誌上「制腐外科の詳細に關する最近の改良」に就ての論文を掲げ、石炭酸油混合物及び排膿管の使用、膿瘍の切開、海綿使用法及其消毒法等に就て論及したり、同年卿は獨國に漫遊し普く諸大學を歴訪して制腐至る所款待受けたり、此年「エチンバラ」に開かれたる大英醫學會の外科部長に推され、制腐法應用後に於ける病院健康上の一次改革に就て講演したり、此時以後卿の苦心したる功勳偉績漸く世間に公認せられ、頑迷なる保守主義を鼓吹する者其聲を潜むるに至れり。

一八七六年勅命に依り一般醫會々員に指名せられ「スコットランド」を代表して同會に列せしが、一八七七年倫敦の招聘に應じ「エチンバラ」を去る、ささなり、從て此名譽職を辭するの不得已に至れり、斯くして第二の故郷と稱すべき「エチンバラ」を去りて倫敦に來りし卿は、直に「キンクス、カレッジ」の臨床外科學教授に推され此處に教鞭をさる事となり、彼の有名なる「ワトソン、シェーン」氏は「エチンバラ」より卿に隨行し來れる助手にして後「制腐外科」なる書を著し恩師の制腐法を世に紹介したりしは人の知る處なり。

一八七八年、一八七九年卿は屢々論文を草し世に公にしたり、當時は石炭酸一分「レンジン」四分「バラフィン」四分よりなる混合物を以て處置されたる「ガーゼ」を以て裝創し、創傷開放中は石炭酸噴霧を施すの法なりき。

一八八〇年八月「ケンブリッヂ」に於て開かれたりし大英醫學會の席上二回の討議を試み、同大學「L.D」の名譽學位を與へられたり。

一八八一年八月國際醫學會の倫敦に開る、や二回の講演をなせり、其一回は病理部門に於て炎症と微有機體の關係に就て論じ、一回は外科部門に於て「創傷療法」に就て演述したり。

一八八三年十二月卿が學徳王聽に達し、准男爵を授けらるゝ光榮に浴し、卿が多年の苦心になれる偉業茲に公認せらるゝに至れり、卿が當時の得意

憶ふべき也、此時より卿は昇永の應用に就て研究を開始し屢々文を草して所信を發表したり、一八九〇年卿は伯林に於ける國際醫學會に出席し、曾ては既に卿が制腐法に反對論難したりし學敵は、今や何れも卿が法に據り腹部の手術等に真成績を収めつゝあるの實情を目睹し、中心快哉を疾呼するを禁ずる能はざりしと、同時に從來用い來りし石炭酸は刺戟少き昇永に其地位を譲るに至れるの大勢を看取するを得たり、一八九一年國際衛生人口會議の倫敦に開かるゝや、卿は推されて細菌學部の長となり有益なる講演をなせり翌一八九二年齡滿限に達し「キンクス、カレッツァ」の教職を退きしが、翌年同大學臨床外科學名譽教授に推され、又同大學附屬病院顧問外科醫を囑せられたり。一八九五年四月九日時の皇太子(先年崩御せられたるエドワード七世陛下)は、制腐法を實際外科に應用するに至りし卿が功績を嘉し、王立文藝院の「アルバート」賞牌を授與せられたり、此年卿は學者の最大の光榮名譽とする王立學士院の總裁に推薦せられたり。

故ウィクトーリア女王陛下が即位六十年祝賀の大典を舉行せられたりし一八九七年の正月、同陛下は卿に男爵を授け貴族に列し賜へり、之れ眞に異例に屬じ國人舉て今更の如く卿が學徳の鴻大なるを賞讃唱歌せざるなし。貴族に列せらるゝ者には、如何なる偉人烈士と雖も多少政略の分子の加味するあるを常とするに拘らず、卿が此光榮は一に之れ其學徳の自然に齎らし來れる賜にして、一毫たりとも阿世曲學政略の分子の混在するとなかりし證は、卿が准男爵に叙せられたりしは、「グラッドストーン」の自由黨内閣の時代にして、其貴族に列せられたりしは「サリスベリー」卿の保守黨内閣の時なりしによるも明なりとす、同年二月廿三日始て上院に議席を占め、卿の處女演説は印度軍に於る花柳病問題の討議に參したるなりき、次て一八九八年種痘法案に就て大演説を試みたりしが國政に關する討議には曾て參加したるとなかりき。

一八九九年二月佛國巴里の學士院外國會員に推さる、此間公團體又は學會

より肖像贈呈其他の方法に依り其名譽を表頌せられたるもの甚だ多く、諸所の會合、大學、學會等に於て有益なる講演を爲したるこ、牧學に遑あらず。

卿は巴里に於る「バスタール」研究所、伯林に於ける帝國衛生研究所の如き、傳染病の細菌學的研究を目的とする研究所を倫敦に設立するの要を唱へ同志の士相會し、卿は其創立委員長を囑せられ、東奔西馳周旋大に努めたるの結果漸く世間の注意を喚起し、「イウエイ」卿より二百五十萬圓の寄贈を受け、終に倫敦に一の宏大なる防疫學研究所を創立するに至れり、同所は當初種痘の創始者「ジェンナ」の名を冠し「ジェンナ」研究所と稱せしが、一九〇三年七月委員會の決議に據り其名稱を變更して「リスタア」防疫學研究所と稱するに至れり。

「リスタア」卿は曾て其「エチンバラ」時代に於て、既に「スコットランド」に於ける侍醫の名譽職(大學教授の職に附帶する名譽職なり)に入りしが、同大學を去ると共に此名譽職を失はざる可からざりき、一八九九年女皇の外科侍醫たりし「サア、ジュームス、パジエット」の死するや、勅命は卿に下りて卿は其後を襲へり、而して「ウィクトーリア」女皇崩し「エトワード」七世陛下王位に即かせらるゝも、依然其榮職を去ることなかりき。

英國の上下が卿を崇拜尊重すること極て厚く、「エチンバラ」市は一八九八年、倫敦市は一八九〇七年、「グラスゴウ」市は一八九〇八年、共に其市の自由市民權を卿に贈り以て市民の感謝と尊敬の意を表し且つ卿が誕辰の地點は特別市地となす等、滿腔の誠意を捧げて此偉人に酬ゆるの道の足らざるを憂ひ、國人卿と共に呼吸するを光榮とし、卿を有するを誇となす、而して卿が享有したりし内外の勳章、學位稱號其他の榮譽舉て數ふ可からず。

卿の計一度傳はるや國王、皇太后陛下は、卿が遺族に令旨を下して哀悼の意を傳へられ、各王族並に天下の貴紳の計を傷むの情を寄するもの其數舉て算ふ可からず。

其長き生涯を濟生の學に捧げ人生の福音を千歳の下に傳へたりし此偉人の葬儀は、去二月十六日午後一時三十分英國王室附屬の寺院「ウエスミンスタア、アベイ」に於て舉行せられ、國家が偉人を待つる慣例に従て其處に埋葬せらるべかりし卿が遺骸は、卿が生前の希望に依り特に倫敦の北丘「ハンプステッド」に於ける卿が最愛の男爵夫人の墓側に長へに横はるることなれり云ふ、吁。(隈川基記、醫海時報抄)

●米國に於ける開業醫

佐伯 矩氏談

自分一個にて病院又は病院と云ふ様な設備を有する者は暫く措き、茲に純粹の開業醫と云ふ者に就て記せば、人は米國といふ國が總ての遣り口が一體に華美であるから、醫者なども餘程思ひ切つた事をやるのであらふと想像するかも知れぬが、米國の開業醫が着實で且つ眞面目な遣り口は、同國人の他の方面の職業と比較して非常なる對照を示して居ることは吾々の豫想外とする處である。

日本に於けることは同じく、先づ若き醫者が醫學校を卒業して學位を受けて州の開業試験に及第して愈々開業の資格が出来ること云ふと、乍張り當分の中は病院の助手とか當直醫とか或は知名の流行醫の許に研究を積みて、少くとも二三年間の經驗を経たる後都合のよき處を選びて開業する。

開業しても日本の様に種々の人目を惹くが如き手段を弄して廣告するといふ事は、普通爲すべからざるものとされて居る、それ故若き開業醫は終日診察所に烟草を燻らして患者が自づと来るのを待たなければならぬ、自分の門の前ですらも只小さい幅一尺堅五寸もある只ドクトル「何某と云ふ名札をブラさげる位のことで、専門の科目ですら門へ掛けるのを控えて居る

位地味である。

斯かる人は偶々重大なる病人に出逢ふ時は、何時も友人互に相助け合ふて一方が手術をする時は他の一方が助手をするといふ風にする、幸にして其土地に善き病院でもある場合には、自分の家の病人を病院へ入院させ、入院料は患者から院主へ拂わせ、診察料や手術料等は自分が受取るといふことになつて居る、此の入院料中には、賄料、室料、燈料等を含んだものである。

又自家の間接の廣告の爲めに附近の醫學校や研究所へ極めて安い給料や或は無給で出勤するものもある、是れは英國なども同様で普通開業するのには慈善病院へ數時間毎無酬で働きをして、數年間毎日一つの場所に止まつて大分顔が買れた時に開業するを例とする、英國には人も知る如く慈善病院は所在にあるから。

唯吾々の感心に堪へぬのは米國でも英國でも、此等の開業醫が日進の學問に後れざらんが爲めに非常なる時間を割き又金を惜しまぬ事である、其れ故に老ゆるに従つて各自に或問題に對して一個の意見を有する様になる、茲に至つて官廳や或は研究所等と意見を異にする或機會に遭遇する事があつても、決して一步も譲らざるの氣概と實力とを備ふる様になる、例令ば傳染病の診断などの場合に堂々たる州廳の衛生局と雖屢々其意見を決するに當りて、一開業醫の鼻息を窺はればならぬ場合も出来るし、又一開業醫にして警嘆するに堪へたる有益なる業績を出す者も出来る、折々會合して

専門家より講演を聽く事は怠らず行ふ處であつて、又よく他の研究者の爲めに研究材料を提供して少しも嫉妬心を起すことがない、時に大學の高名なる教授や開業を爲し居らざる醫學者等に對診を乞ふ、其指導を受けて診療を續けるといふ事は日本に於けると同様である。

一體に患者は殊に婦人ですらへ科學的智識の修練を経て居るから、病人を治療する醫師が、極めて明白なる診断と其據る處の理由を説明して得心させ

るでなければ信用を博するといふわけにわづかぬので、開業醫の患者の取扱振りが自然に科學的になつて居、或國の如きは例之自己の發見した「トラホーム」の病原だろうと思ふ細菌を試験的に一定患者の眼に塗布して醫師竊かに試験を爲すと云ふ機會でさへあるといふことであるが、英米二國に於ては決して斯の如き事は不可能であること云ふのは患者の智識が發達して居るからである。

併かしながら英米二國と雖品性の高き醫師のみならず時として又眉を蹙むるに足る如き行を爲す者があつて、誇大の廣告をしたり又は職業上家族との關係親密なるを悪用する等のことも見聞せらるゝ場合がないではない、又同業者互に相排擠して利己中心の醜行を敢てする者がないではないが是等は素より例外である、米國と云ふ國は一の大國ではなくて數多の國の合衆したものであつて、到る處州の異に従つて、各自獨得の制度の下に醫師を支配して居り、又醫學校の如きも公私大小千種萬別なるが故に、彼の金儲けを主眼として外國行きの布教に關係したる一二醫師などを標準にして、米國全体の醫師を想像すれば非常な誤りに陥るのである。

日本に於ては全体に米國の醫師を實際上の價値實力よりは稍輕視するの弊があるかも知れぬと思ふ、或四五の醫科大學は世界最大の醫科大學に比べて寸毫の遜色あるにあらず、現に齒科又は外科の如きは世界何れの國よりも優れりとして憚る處がない。

日本などで開業醫が屢々困難を感じるは傳染病診斷の場合であるが、米國にては州と州とによりて行く方が異つて居るが、米國にて最も設備の整頓せるニューヨーク州の例を擧ぐれば、傳染病中結核と「チフテリ」と「チナス」とは州廳衛生局の管下に作業せる研究所へ宛て検査材料を送附させる、此検査材料を送るは患者自身にても宜しく又主治醫にても可し、又特に開業醫申より選ばれたる衛生醫官の手を経て送らる、研究所には専門の技師ありて毎日接手せる結核の略痰「チフテリ」の鼻腔と咽頭より塗擦

したる血清培養基を一定時間孵卵器に容れたるもの、或は「チナス」患者の血清等を検査して其成績を即刻州廳の衛生課、患者若くは醫師即ち材料を送致したるものに結果を報告する、結核の略痰の容器、「チフテリ」培養用の血清培養基、「チナス」血清採取用の硝子管等は請求次第下附する事になつて居る、之は衛生醫官の手を経て來たものは無料であるが個人又は主治醫等より請求の場合には實費を徴收する、又研究所に於ける診斷は發送者の志望に従ふて電報或は電話郵便何れなりと任意指定することを得、醫師材料を送る場合には臨床的診斷の名の下に自己の診斷を記入するも差支ない、州廳は通知を受くるや否や直に其病家に就き、注意事項或は適當の處置に關し懇切なる指導を與へる、是れは多くは書付で遣る、此方法によつて極めて圓滿に傳染病の事が醫師と患者との間並に州廳との間に極めて圓滿に其成績を擧ぐるこゝが出来るのである。

終りに醫師の投薬は宅診でも往診でも普通の場合に於ては、製劑になり居る錠劑を用ひて居る、外用の水薬までも錠劑で與へる。米國に於ては錠劑の極めて發達せるものがあつて、其性状並に分量に於て能く安心して用ひることを得る爲めで、醫師が處方箋を書いて之を藥舖に持参する場合には、藥舖は普通非常の高價なる調劑を取るのである。(大東醫事新報抄)



通信

●張勳郷君通信 (醫科第四年級學生宛)

天氣が漸々和暖になりました皆様の御安泰を奉賀致します次に僕は歸國以來赤十字社に暫く居りました後に浙江都督の命に應じて二等軍醫長の職を奉りました今迄皆音信不通の處へ行軍しました故に久しく御起居を御伺致さぬ缺禮の罪を謝します今は御蔭様で弊國の國体も共和になつたり統一政府も成立したり僕は辭職して御國へ留學する積りであつたが上海の軍政府は暫く軍醫科一等科員の乏を承して呉れと云はれまして仕方がないですから九月になる迄奉職してそれから御國へ参りませうながく皆様と今居しないでしたから學問は大に退歩しました非常に残念でした何卒時々教て下さい色々の事を申上度いが文章は拙いですから略します後には面會する時に申上げませうこゝで皆様の健康だけを祝ひます匆々(上海滬軍都督府軍醫科)

●猪木彦助君消息 (三十七年卒業、八田智証氏宛)

(前著)櫻花の候と相成候得共時々春風冷かに身を切るか如く天候の不順なるには泥龜宜しく首を縮め居り申候、兼六の春色愈濃かき由再遊の念に不勤候も、奈何せん貧乏暇無しの際に洩れず馬關の小天地より一步も出て難きは閉口の至りに候、少生も今や開業後滿一周年に相近つき申候も不幸發展の機運未だ熱せざるもの有之候、元來の愚訥四角四面の人間は奉職して

も浪人しても世渡は相變らず拙劣に候、此處一番勇氣を鼓してオベツカの一つも言はんぞするも藪から棒的にて殆んど首尾全からず却て四角四面の方宜しきを自覺致候、東北の菊地酒泉の守も昔變らぬスタイルならんぞ何んぞなく慕はしく懐かしく御座候、櫻花の盛時人の氣も浮き立つ今日此頃玄關寂寥徒らに春眠を貪り居るの外何等の藝當も無之候、殊に兒無き身には別に慰藉の材料とてなき儘犬猫各一匹飼養仕候處不運にも猫奴は河豚の中毒大奴は犬殺しに襲はれ共に迷土へ旅立ち申候、以來動物は一切嚴禁之に代ゆるに生瓢箪一個を求め日々握りては酒を入れ出しては攪り愛賞餘念なく何時かは腰にぶら提げ往診の御供仰付けんかと樂み居り候、

過日中學時代の友人訪ね來り歸坂開業を切に勧め呉れ尙又嘗て治療を加へし患者來り本縣下の某所に於て開業を勧め呉れ申候得共、聊か思ふ處も有之石の上に三年的に流行するもせんもソナこは凡て度外に附し吾不關焉と暫し此處に居居るの覺悟にて御座候別にアセルことも無之其日くの米代と酒代さへあれば多く得るの必要を感せず候、尤も石の上の三年のさば云へ所謂三年不鳴不畫畫は、何さか、にて無之候間御安神被下度候
四月五日
下ノ關市入江町

●菊地文岱君消息 (三十七年卒業、全上宛)

(前著)兼六園の花今正に見頃なりと、少生は花を思ひ公園を思ひ學校を思ひ病院を思ふ毎に亡き恩師先生を偲びいと感懐に不堪候、當地方の如き春尚洩く今日此頃落花ならぬ吹雪は毎日くひたつゞきに續き霽れたるかと思へば又吹雪き元來狂ひ出せる天氣さて變化窮りなく候、近來殊に産科的往診ホツ／＼つき先つは閑中の忙さいひ可申候、昨秋の凶作、稻熱病に對する農家の狼狽も今や慣れたることゝして餘りに口にせざる様相成り申候も一步内部を窺へば困憊疲弊誠に憐れなる狀況に候、食物など米食國た

此地方としては随分悲惨なるものにて上等にて先づ糶に大根葉の乾干したるものを雜せ食し居り申候、只其のクセ日雇連中は反て米なき食い候は聊か當然の事に御座候、小生等も一時は外國米に甘んじたるこゝろ有之候、御推量願上候

清水秀夫兄の小供調中々に面白し、小生も亦諸兄に譲らざる方にて目下 Der? Die? まづ Der 様に装填仕置候、頗る非常に盛なりと御賞め被下度呵々(後畧)、四月七日

秋田縣雄勝郡播野村字金谷

●酒井謙治郎氏通信 (四十二年卒業加藤教授宛)

寒冷の砌其後先生には如何被遊候設奉伺上候降て私事御座候を以て無事勤務罷在候間乍憚御安神被下度候却説今回醫學校より總督府京畿道廳へ轉任を被命衛生試験を擔任致しその創設方を被命候に付東京、京阪、中國の都市に於ける衛生試験狀況視察の目的を以て去二月五日より五十六日間出張を被命只今市衛生試験所遠山博士の下に於て見學仕居候久々に東部の模様を見て面白く御座候(中略)某氏より松田君を紹介され逢つて見れば去年の母校卒業生久々に金澤の様子も承り嬉しく存候何卒藥學界の爲將又生等の爲め折角御自愛專一に祈上候在京は丸一ヶ月の豫定にて警視廳、内務衛生試験、宮内衛生試験も參觀の上退京可仕考に御座候先は久瀧御詫旁申述候草々不一

二月二十日



校内雜報

●弓術百射會記事

一 委員

世の中は夢か現かまほろしか昨日今日とは思はれど實に日月の行くに關守なく樂しかりし正月もさく過ぎ行きて梅花咲き染むる頃とはなりぬこゝに於て我が十全會弓術部は後日北陸弓術界の綱を握りて我が十全會に卓越せる弓術部の存在を江湖の諸氏に示めさんが爲め練習として百射會は催せられぬ

時は三月廿一日春季皇靈祭にして天期かにして氣清く幔幕引きめぐらしたる我が道場に腕を扼せる健兒の今や遅しと戦を待つ

先づ陣頭に現はれたる勇士の面々淺賀、松本時、篠原、鳥居、増谷諸氏必死となりて戦ふ戰酣となり鳥居幼少より戰軍万馬を往來したる強者なれば射れば射る程勇氣百倍各勇士も我れ劣らじと奮戦すその成績左の如し

- 10 本當り 淺賀 正雄
- 20 松本 時吉
- 19 篠原 於苑
- 26 鳥居 環
- 15 増谷 宗

第二回の強者は茶野、原、八島、久本、曾我、の諸氏前回よりいさゝ激しく戦ひ爲めに矢叫びの聲天地も裂けんばかりなりき

- 29 本當り 第六等賞 茶野 仁六

10 原 薫
 11 第五等賞 八 島 修
 12 久 本 榮 治
 13 會 我 逸 雄

14 第三回は宮崎、岩田、千田、北村、加藤先生、八島先生の諸氏腕をつくる
 ひ現れたり激戦は前に數倍筆跡に盡し難く各手練の秘術を盡し一上一下雷
 光石火一矢的中すれば歡聲天地に轟き山岳爲めに震動し百雷落つるが如く
 弦音矢叫かけ聲勇ましく戦今や酣にしてその盡くる處をしらす勇ましき云
 ふもなろかなり時に日は早や西海に没せんぞす

15 36 本當り
 16 第四等賞 宮 地 通 夫
 17 宮 崎 博
 18 第參等賞 岩 田 高 明
 19 第貳等賞 千 田 登
 20 北村清太郎
 21 第壹等賞 八 島 先生
 22 加 藤 先 生

23 勝敗は時の運破れしものも勝ちしものも共に勇ましくぞ勵きける嗚呼我が
 親愛なる弓術部の勇士益々奮ひ勉めよ
 24 百射會を卜し左の如き進級を行ひたり
 25 吉田家手前之書授與せられたる者
 26 岩 田 高 明
 27 一級進級者
 28 千 田 登
 29 二級進級者
 30 北 村 清 太 郎
 31 八 島 修
 32 伊 藤 磨 他 雄
 33 三級進級者

34 宮崎 博
 35 四級進級者
 36 岡田 申吉
 37 松本 乙男
 38 藤田 研二
 39 久本 榮治
 40 會我 逸雄
 41 五級進級者
 42 中田 義竹
 43 茶野 仁六
 44 光浦 仙太郎
 45 松本 時吉
 46 此に特記すべき事は一級に進級せし者にて卒業する諸氏に對して賞牌とし
 て銀メダル一個を春季大會を卜し授與せらるゝ事となり又進級は今迄春季
 大會にのみ行ひしも此れより時々催しのある時進級を行ふ事あり嗚呼我
 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

●第五回杏林會 (四月十二日)

櫻がざしていざや唄はん春の調べ、花のうたげも其處此處人々群るゝ尾
 山神社、大路小路に人繁く醉客雲集花を躑んで歸る、猫も杓子も浮れ出す
 あわれ樂しき春の日よ、咲く花ならねど藥學科の花にたゞへらるる杏林會々
 員約三十名當地商業會議所に集りぬ
 「第五回杏林會々場」そのいかめしき張紙道行く人の足を止めぬ
 定刻になりたれば劈頭第一幹事の一人開會の辭を極く簡單に述べぬ
 吾人こゝに一言す杏林會は決して現今クラスの親和をのみはかるものにあ
 らず將來の抱負また科全体に對して大々的希望あり課會の相談、雜誌の出
 版等次で石野越智尚君によりて言ひ出されぬ
 一、湯涌の温泉
 小 出 君
 君かひこころの理想旅行談たり、優しき態度よやさしき聲よ杏林會の花形と
 言ふも敢て過言ならずと信す
 一、養生一訓
 小 原 君

「自分は初めての演説である」と遜辞を措きて吾人青春の頃の養生法をさか
れぬ結論して曰く慾を制するにありき蓋し孔孟の言!!

一、機會を注意せよ

吉野君

一、麥酒の製造

内藏君

君は大阪府吹田村に在ける實地アサヒビール製造所を觀察したる何ぞ精細
なる事かくの如きや、秩序をたもつ爲めの十分間演説の規定こゝに至りて
遺憾なりき

君が研究の結果こゝこゝ聞く能はざりし

一、大阪見學旅行

堀君

大阪工場見學の途中四月三日の祭日を利用して、箕面の龍寶塚のいで湯に
自然を樂みし君が紀行名物に甘いものなしの謠を打破せられぬ
此處に於て約二十分休憩す、折詰の饜應あり鼻の下の御祭最中、蓄音機の
演奏、口と耳と同時の働き忙しき限りならずや

一、來賓陸軍一等藥劑官北村忠次郎氏の講演

次に時間切迫の爲餘興浪花節あり京山春月君の得意の讀物水戸黄門記、次
で松岡上等兵の出征、泣きつつ笑ひつしは手にあせを握りぬ

一、林先生の講演

神田君

例の沈着なる態度にて所感として意見をのべられぬ世の中の變遷の甚しき
あした生れて夕に死す蟬蛻の如く吾人が氣付きし時は最早後しき、蓋し眞
理なり事實なり、ア、偉大なる時の力よ

一、斷じて行へば鬼神も避く

宮田榮君

君の氣質表はれし口調抑揚あり元氣あり、ナホレオンが往時を引例して痛
快

一、發展は成功の元

神谷君

待ちこがれし名物男君が演説の調子はたしかに群を抜く「給ふに靜聽を以

てせよ」その一言今なほ吾人の耳にあり至極簡に本會を例せしは御手柄
御手柄
Chinamonum camphora

越智君

講義的態度藤澤樟腦の説明然し最早夜更けて十一時止むを得ず中途にて止
められしは千歳の限事なり

然し北村氏の口添ありてセルロイドの製法に及びぬ

一、「チオシクロンオール」

石野君

「レスピラチン」の醫事効用並に製法性状恰も製藥化學の講義の如し次で寤
多尾氏の苦心談實に同氏にまじりて一個の知己たり

之れにて豫定の演説終つげぬ興は盡さざれど如何にせん時が許さず遺憾
ながら閉會を宣言しぬ

終りにのぞみ來賓諸君並に會員諸君に幹事不行きさびきを深謝す

(十五日SY生記す)



内地雜報

醫學會講演者

去る四月東京及各地方に於て開催せられたる各醫
學會總會に於て本會々員の講演せる者左の如し

▲東京學會

糖尿病の含水炭素療法(内科學會)

佐々木 達

手術及び剖見によりて証明したる胃周圍炎の

一例(消化機病學會)

腸管囊胞様氣腫の一例

腸管囊胞様氣腫の發生(未濟)

神經質の原因(神經學會)

神經衰弱症之「ヒステリー」(内科學會)

小兒の神經過敏症(兒童研究會)(未濟)

「ヒステリー」の診斷(神經學會)

精神病者に「ツベルクリン」及び「タクレイン」酸

曹達注射後の血液所見(神經學會)

肺結核患者の血液所見に對する Granwitz 氏說(内科學會)

肺結核の治療的氣胸(内科學會)

尿化製の一新法(衛生學會)

各種防臭劑の比較(衛生學會)(以上東京)

所謂クルーケンベルヒ氏卵巣腫瘍(婦人科學會)(京都)

標本供覽(婦人科學會)(京都)

小兒尿の「デアスターゼ」含量(小兒學會)(名古屋)

全 上

下 平 用 彩

村 上 庄 太

松 原 三 郎

全 上

全 上

石 川 精 一

石 澤 太 作

竹 中 繁 三 郎

全 上

北 豐 吉

北 太 一 郎

北 豐 吉

北 太 一 郎

演 太 一 郎

鬼 頭 英

藏 光 長 次 郎

岡 本 京 太 郎

叙任及辭令

●金澤醫學專門學校

明治四十五年三月二十三日

金澤醫學專門學校産科婦人科學副手

中 川 久 成

依願囑託ヲ解ク

三月二十七日

體操副科劍道教授方臨時囑託 都賀田 茂 穂

御用濟ニ付囑託ヲ解ク

三月二十四日

金澤醫學專門學校教授 加 藤 靜 雄

學術上取調ノ爲メ京都府及大阪府へ出張ヲ命ス

藥學科藥學科副手 野 崎 芳 孝

三月二十九日

教授加藤靜雄學術上取調ノ爲メ京都府及大阪府へ出張ニ付隨行ヲ命ス

金澤醫學專門學校助教授 林 常 雄

三月三十一日

學術上取調ノ爲メ東京府及京都府へ出張ヲ命ス

雇 橋 爪 次 三 郎

依願雇ヲ解ク

四月九日

金澤醫學專門學校教授 加 藤 靜 雄

藥學科藥品工業學校官會議ノ爲メ上京ヲ命ス

金澤醫學專門學校書記 山本兵三郎

校長上京ニ付隨行ヲ命ス

四月十五日

金澤醫學專門學校精神學副手 石譯 太作

依頼囑託ヲ解ク

●石川縣

三月五日附

醫員ヲ命ス (十二給俸) (外科二部)

住 田 立四郎

三月三十一日附

石川縣金澤病院長 山 碯 幹

年手當千貳百圓給與

石川縣金澤病院神經精神科部長 醫學博士 松原 三郎

年手當六百圓給與

石川縣金澤病院調劑部長 高山 基重

年手當貳百圓給與

四月一日附

石川縣金澤病院醫員 石川 精一 (神經科)

十一級俸給與

馬 詰 定 衛 (外科)

全

山 崎 重 治 (内科)

醫員ヲ命ス (拾貳級俸給與)

仙 波 宏 造 (婦人科)

全

淺 井 泰 (全)

四月六日附

婦人科兼産科部長囑託

金澤醫學專門學校教授 藏光長次郎

年手當六百圓給與

四月二十四日

願ニ依リ職務ヲ免ス

金澤病院醫員ヲ命ス (神經科)

那 谷 與 一 (全)

十二級俸給與

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

人 事

●横山 軫氏 全氏(二十四年度卒業)は卒業後早く北海道函館に移住

して一般外科及泌尿生殖器病の治療を専門に開業して非常に成功し終には明治三十二年外國留學の途に上り最初英國の倫敦大學に遊學し次で瑞西ベルン大學に移りてヤターソン氏に泌尿生殖器病をコッヘル氏に就て外科を研究し尙ほ夫より米國に航して紐育州バッフロン醫學科大學に入り此處にて「ドクトル」の學位を得て三十六年夏歸朝せられ爾來一層業を擴張して病院組織に改め盛名函館附近に轟きたることは人々の知る所なり。此度金澤市郊外松任附近の郷里に歸省せられ去る三月下旬來校せられたるにより眼科教室に於て病院醫員。研究生及三學年生一同を集めて講話あり滔々として東洋の將來を説き進んで青年醫士たるべきもの、此の多望なる將來に覺悟すべき注意点を演ぜられたり。尙ほ一夕北間樓に於て全氏の知人相會して

歡迎會を開き會する者下平用影。松原三郎。飯森益太郎。藤井伊之吉。生駒廣太郎。米村吉太郎。山田孝太郎。蓮村外男。鶴見金十郎。岡本京太郎。田中一次郎等の諸氏なりき。

尙ほ全氏は金澤を去つて嚴島に參詣し夫より長崎を経て上海に航し目下南清漫遊中なり。吾人は此希望遠大にして着眼の奇抜なる全氏の異郷にあつて益々健全ならんことを祈る。

●中川幸庵氏 全氏(二十七年卒業)は卒業後上京して東京永樂病院に入り病院長山根文策氏の下に永年内科醫局長となり島田吉三郎。白井精一氏。諸氏と共に同院内科は全く吾が金澤醫專校出身者のみにて占領し常に後輩の誘掖指導に盡碎せられしが三十七年全病院の制度改革となり各醫局は大學出身者のみを以て組織することとなりしより全氏は遠く臺灣に渡りて公醫となり現時は花蓮港醫院の院長となりて其敏腕を振はれつゝあるが過般東京に各學會の開催せられたるため上京せられ且つ越中小杉附近の郷里に歸省せられ去四月十日來校して親しく各教室及病室等を參觀せられたり。よりにて十一日夜金城樓に於て全氏の歡迎會あり會する者主賓全氏を始めとして山崎幹。松原三郎。藤井伊之吉。生駒廣太郎。米村吉太郎。山田孝太郎。蓮村外男。岡本京太郎。井上敏吉。田中正一。田中一次郎諸氏なりき。

●伊藤喬氏開業披露 三十九年の本校卒業にして爾後金澤病院耳鼻咽喉科並に外科第二部に於て宮田教授の下に研鑽せられしと滿四年有餘今や斯學の深奥を究め幾多の經驗と斬新なる學殖を蓄蓄せられしは世既に定評あり然るに先般都合に由り同院を辭し自宅に業務を開設し汎く患者の診療に従事せんとして氏が理想の醫院を新築し最新の醫療器械を備ひ更に東都及び京阪地方の専門大家に親しく接し益々基礎を固め以て當市高岡町に開業せられたり。去月十日金谷館に披露の宴を開けり來會者は恩師諸先生市内開業醫病院醫員新聞記者親戚知己等にして甚だ盛會なりき前途多望

の士益々健在なれ。

●福田美明氏開業披露 昨冬金澤病院神經科醫員を辭し去る三月中旬より開業されたるが四月十五日富山ホテルに於て開業披露の宴を張る。會者金澤より山崎院長。松原博士。石川醫員。富山市開業の醫師無慮七十有餘名なりき。午後六時福田氏の謙讓なる挨拶ありて後山田醫學士來賓を代表して答辭を述べ田上、ドクトルは同窓生を代表して祝辭を述べ富山市が福田氏に期待する所多きを述べ君が自重あらん事を祈る山崎院長は氏が金澤病院に於て内科に及び神經科に於て氏が多大の効蹟を擧げられたるを謝し富山市に於てかゝる人物を得られたるを祝さる松原博士は神經科に此人を逸せしは一大打撃なり氏の學力技術に於ては間然する所なきも社會に對しては花嫁なれば同業諸君の助力を仰きたし又氏に希望として今日の醫者は學力を以て満足すべき者にあらず人格の修養をつまれん事を望むと、甚だ盛會にして散會せしは午後九時なりき。

●吉尾開道氏開業披露 全氏(三十九年度卒業)は卒業後永く金澤病院内科一部にあつて山崎教授の下に内科一般を研究して今日に至りたるが此度病院を辭職して金澤市内博勢町に開業せられたるにより去四月二十四日金城樓に於て其披露の宴を開けり。會する者山崎、下平、佐々木、上田、松原諸教授、山森市長、飯森益太郎、三木三郎、田中正一、八田智証、島誠都、氏等の醫士諸君及市内の有志者を合せて六十名以上に達し初め吉尾氏の謙遜なる開宴の辭あり次で山崎幹氏は來賓を代表して一場の答辭あり吉尾氏が滿五ヶ年間に於て専心研究に従事し殊に非凡の精力と着實さを以て事に當られたるは他人に見ること稀なる所にて此後此主義を棄つることなく決して成功を急がず所謂大器晚成的に益々努力せんことを希望せられたり、甚だ盛會にして夜十時過に散會せり。

●石澤太作氏の開業 全氏(四十三年卒業)は卒業後直ちに金澤病院神經科の研究となり四十四年四月全醫局の醫員となり非常の精力主

義にて研究中なりしが此度其郷里に近き越中氷見郡藪田村に於て獨立開業せらるゝこととなり去四月東京の神經學會にて講演後直ちに歸院の上辭職して四月十四日一旦其郷里なる能登國鹿島郡南大谷村字大泊に歸省し夫より開業地に向ひ去四月二十日附近の紳士及同業者を招待して開業披露の宴を張られたり。因に全所は一昨年本校を卒業せる淺野達也氏の殿父が多年開業して盛事を博しつゝありたるに昨年不幸にして病死せられたるに付き全地方有志者の乞によりて其建築物及び器具等一切を引受け非常なる好都合を得て開業せられたるなり。吾人は此前途最も多望の青年醫士の成功を切に祈る。

●松坂幸七郎氏 (三十八年度卒業)は舊高橋姓を松坂と改姓せられ富山縣中新川郡滑川町大字瀬羽町に住せらる。

●大江忠三氏 (三十九年度藥學卒業)は今度臺灣臺北衛戍病院附に轉任さる。

●稻崎重助氏 (四十年度卒業)從來永樂病院内科に勤務中今度東京本郷區眞砂町一五に開業さる。

●山内馨二郎氏 (四十年度卒業)從來神戸市兵庫鐘紡病院に勤務中なりしが今度大阪市天王寺阿倍野筋二丁目を開業さる。

●佐藤 武氏 (四十年度卒業)は今回臺灣桃園廳大山科嶺分遺隊附を命ぜられたり。

●成田高仁氏 (四十二年度卒業)は先年來病覺に襲はれ房州北條病院に於て専ら靜養中なりしが去る十一日午前八時溘然逝去されたりと謹て哀悼の意を表す。

●那谷與一氏 全氏(四十三年卒業)は卒業後金澤病院神經科に止りて研究し翌四十四年四月東京大久保腦病院に轉じて山田鐵造博士の下に精神病及神經病の治療に従事なりしが此度神經科の石澤太作氏の辭職せるによりて其後任者として再び神經科に歸り其醫員となられたり。

●若槻芳隆氏 (四十四年度卒業)資性落磊同窓生中稀に見る快活なる君は卒業後金澤病院外科一部に於て研究に従事せられしが今回遊學の爲め東上せらるゝ事となりたるを以て四月廿二日同期生相謀り院内にて心計りの祖道の晩餐會を開き互に君の前途を祝福せり好漢幸に健在なれ!

會 告

●自明治四十五年三月五日 校外特別會員會費調書

金額	期 限	氏 名
金五圓	自四十一年度至四十五年度	成 田 成 治君
金五圓	自四十四年度至四十九年度	吉 井 直 次君
金貳圓	自四十二年度至四十三年度	水 上 俊 三君
金五圓	自四十一年度至四十四年度	江 守 武君
金貳圓	自四十三年度至四十四年度	崎 達 郎君
金參圓	自四十三年度至四十五年度	岡 部 忠 清君
金參圓	自四十四年度至四十六年度	本 田 三 郎君
金參圓	自四十四年度至四十六年度	金 谷 季 男君
金參圓	自四十四年度至四十六年度	加 藤 錠 吉君
金參圓	自四十四年度至四十六年度	松 坂 幸 七 郎君

以上